



2026年3月期 決算説明資料

株式会社 **ビケンテクノ**
(証券コード：9791 / 東証スタンダード)



BIKENTECHNO
with advanced technologies

目次

- | | |
|----|--------------------------|
| 3 | 当社およびグループ会社の概要 |
| 4 | 2026年3月期 連結決算の概要 |
| 5 | 2026年3月期 単体決算の概要 |
| 6 | 1株当たり年間配当の推移 |
| 7 | 2026年3月期 連結決算 セグメント業績の概要 |
| 19 | 今後の課題 |
| 20 | 当社グループの成長戦略 |
| 26 | 当社グループのサステナビリティ戦略 |

経営理念

「お客様第一主義に徹する」

代表者挨拶

代表取締役社長 梶山 龍誠

私たちビケンテクノは1963年の創業以来、お客様第一主義の実践を理念に、ビルメンテナンス事業を中心として成長してまいりました。

お客様のお困りごとを解決するため挑戦を続けて幅広い分野へ事業を拡大してきております。

今、社会は地球環境問題や労働力不足といった大きな課題に直面しています。私たちは「先端技術のビケンテクノ」をスローガンとして掲げ、省エネ・DX・ロボット活用など独自の強みを活かし、持続可能な社会に貢献してまいります。

これからも創業以来の理念を大切に、安全・安心と快適を支える企業として挑戦を続けてまいります。

2026年3月期 連結決算の概要

2026年3月期 連結 決算業績

(百万円)

	2025年3月期	2026年3月期	増減額
売上高	34,669	36,505	+1,836
営業利益	1,424	2,052	+627
経常利益	1,547	2,209	+661
親会社株主に帰属する 当期純利益	979	1,421	+442

記載金額は、百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

2026年3月期 単体決算の概要

2026年3月期 単体 決算業績

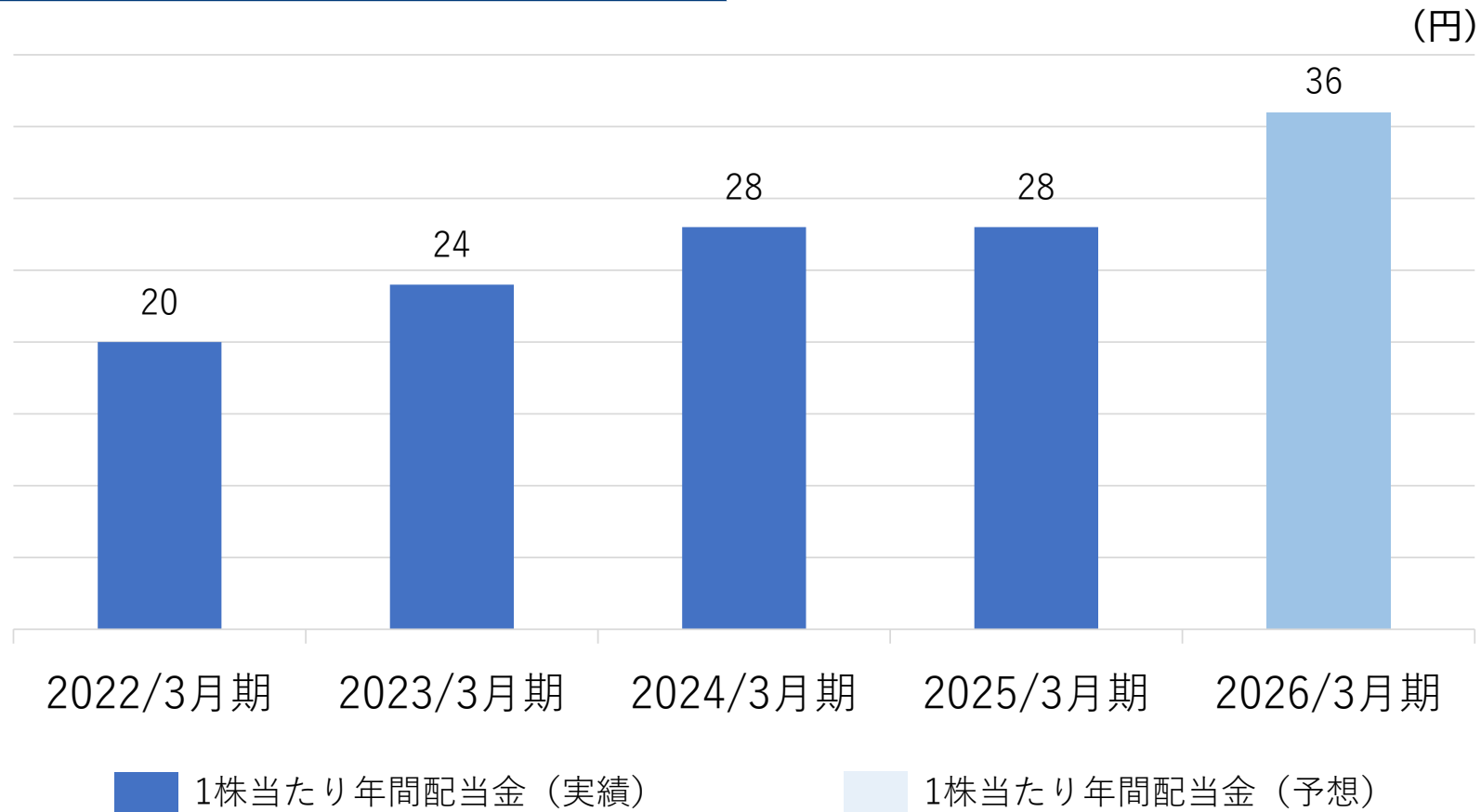
(百万円)

	2025年3月期	2026年3月期	増減額
売上高	28,368	30,099	+1,731
営業利益	924	1,446	+522
経常利益	906	1,533	+626
当期純利益	526	994	+467

記載金額は、百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

1株当たり年間配当の推移

1株当たり年間配当の推移



ビルメンテナンス 事業



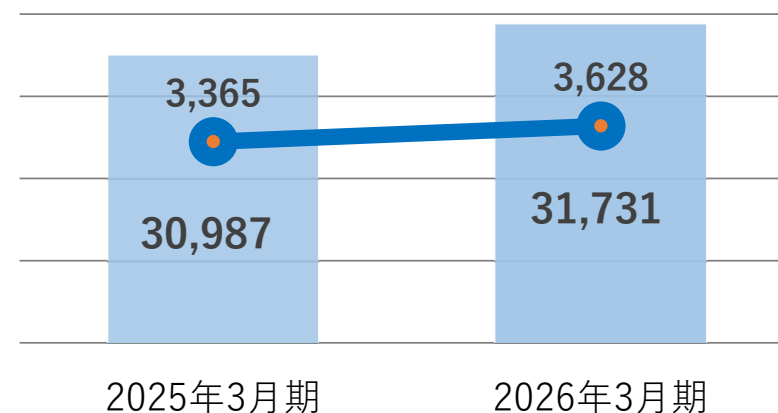
ビルメンテナンス 事業

大型再開発案件を含む新たな商業施設や物流施設のメンテナンス業務等の受注増加や、経済活動活性化に伴う工事受注、大阪・関西万博を契機とした業務拡大などによる堅調な業績の進展が見られ、前期比で売上高・セグメント利益が増加しました。

(百万円)

売上	31,731 百万円
利益	3,628 百万円

記載金額は、百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。



不動産事業

不動産 売買

不動産 売買仲介

不動産 賃貸

信託受益権 売買

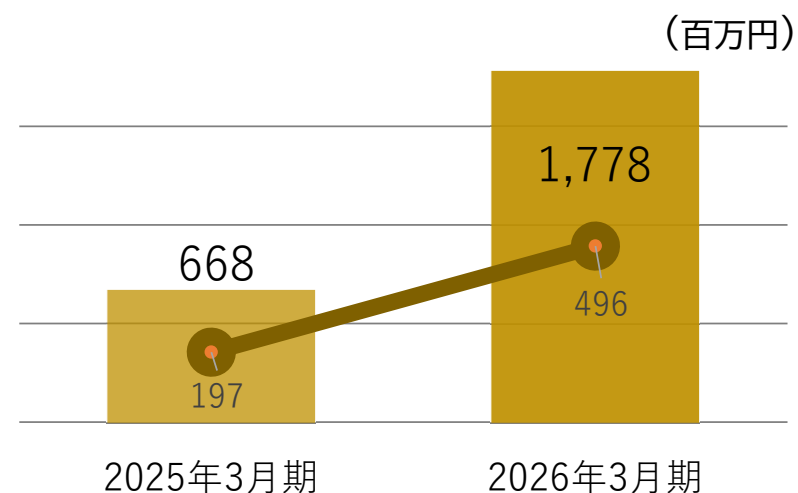
信託受益権 売買仲介

不動産リノベーション等

不動産事業

不動産売却の成立及び取得物件の賃料見直しや入居者増などによる賃貸収入の増加により、前期と比較して売上高、セグメント利益が増加いたしました。

売上	1,778百万円
利益	496百万円



記載金額は、百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

介護事業

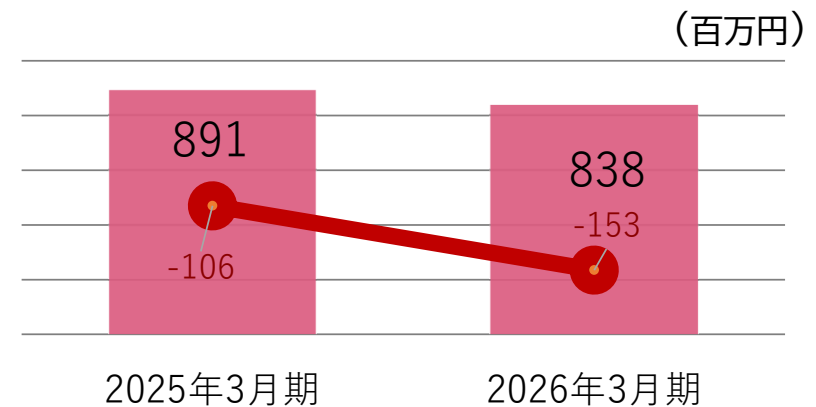
介護付有料老人ホーム **メルシー緑が丘**



介護事業

介護事業では、介護施設の運営や介護サービスの提供を行っており、入居者様・ご家族様の立場に立った高いレベルのサービスを提供しております。2026年3月1日に入居者確保に苦戦していた1施設を事業譲渡しましたが、譲渡に伴う準備等の負担の増加や介護人材確保のための費用の増加等により、前期と比較して売上高が減少し、セグメント損失が増加いたしました。

売上	838 百万円
利益	-153 百万円



記載金額は、百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

フランチャイズ 事業

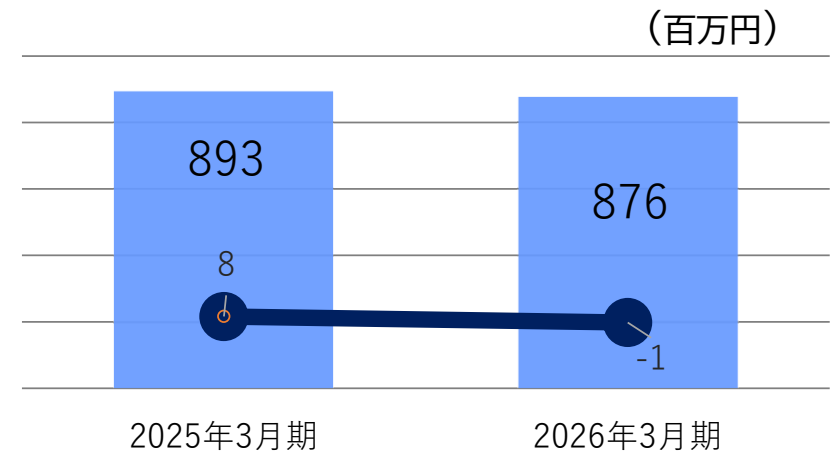


フランチャイズ 事業

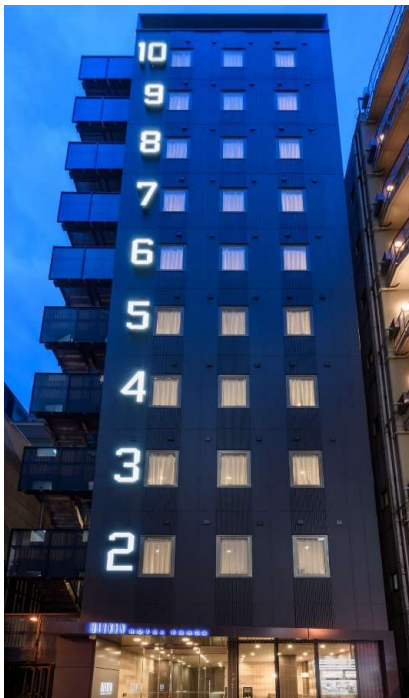
店舗ブランドとして、サルヴァトーレ・クオモ、やきとり家すみれ、プロント、ミスタードーナツ、銀座に志かわ等の店舗展開を行なっていましたが、各店舗の収支状況等を勘案しスクラップ&ビルドを進めています。具体的には、銀座に志かわ堺東店を2024年10月に、やきとり家すみれ五反田店を2025年2月に、やきとり家すみれ福島店を2025年10月に、それぞれ閉店しました。やきとり家すみれ五反田店の跡には、自社ブランドとして新店舗の串揚げや みつ八を2025年3月より営業しております。そのような店舗減少や閉店費用負担の影響もあって、前期比で売上高が減少、セグメント損失計上となりました。

売上	876 百万円
利益	-1 百万円

記載金額は、百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。



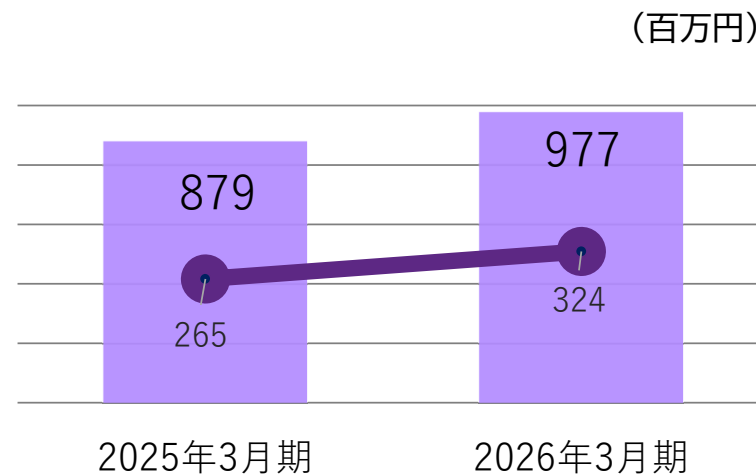
ホテル 事業



ホテル 事業

現在、東京と沖縄で2棟のホテルを運営しています。国内観光の活性化や出張需要の増加等により、稼働率・ADRがアップし、前期比で売上高・セグメント利益が増加しました。

売上	977 百万円
利益	324 百万円



記載金額は、百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

その他 事業



・・・瞬間除菌消臭・・・

PROTOCOLAN AQUA

プロトクリン・アクア

PROTOCOLAN WATER

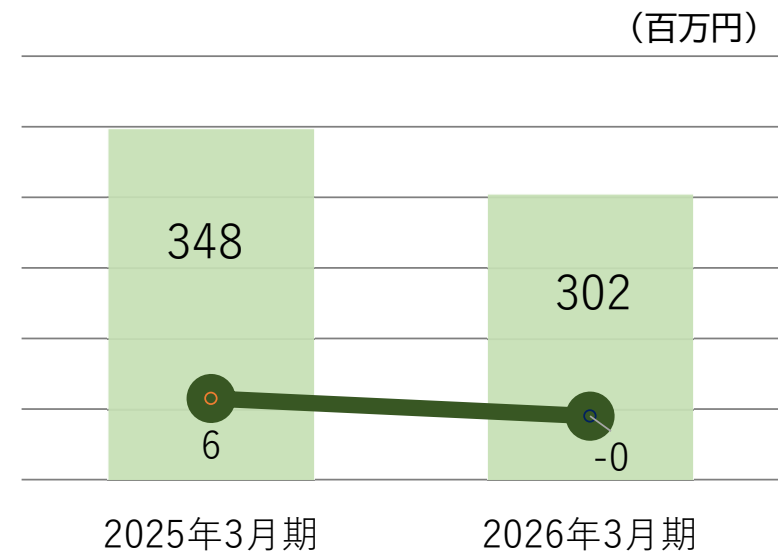


その他事業

その他事業ではフードコート運営事業、太陽光発電事業、関連商品販売事業などがありました。2025年8月末をもってフードコート運営事業から撤退しました。撤退前のフードコート事業の不振により、前期比で売上高は減少し、セグメント損失計上となりました。

売上	302 百万円
利益	-0 百万円

記載金額は、百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。



経営環境における不安定要素の拡大

当業界を巡る経済環境は、国内経済が全体的な企業収益の改善により回復基調が見られていましたが、中東情勢悪化による原油調達の不安定化により、国内全体では原材料費高騰・必要量調達懸念等のリスクが高まり、直接的影響は少ない業界ではあっても間接的な影響が懸念されます。また、人材確保難、人件費高騰も益々顕著化が予想されます。



ビルメンテナンス事業の成長戦略（環境変化への対応）



- 当業界を巡る環境は大きく変化しており、環境の変化やお客様ニーズに即応した営業強化を図ります。
- 具体的には、首都圏や関西圏をはじめとする大型開発プロジェクトや、地方再生リノベーション案件などに対して、初期段階からの各種提案などに積極的に取り組みます。
- 業務推進にあたっては、お客様所有不動産の物件価値向上に向けて、徹底した衛生管理、省エネなどのエコチューニング提案、業務のロボット化などの品質重視の各種メンテナンス提案を更に推進します。
- 業務管理においては、工数管理の徹底、人材確保の多様化、人材育成の強化、業務管理のDX化などを更に推進します。

ビルメンテナンス事業の成長戦略（当社の強みの発揮）



- 当社の強みであり従前より注力しているPPP事業案件、物流倉庫・データセンター等のメンテナンス業務、冷凍食品などの製造ラインの安全・衛生管理を担うサニテーション業務などを更に拡充します。



- 「いのち輝く未来社会のデザイン」をコンセプトに開催された大阪・関西万博でのメンテナンス業務において導入した最先端の業務スキルを今後、他現場でも提案・活用し、業容拡大を図ります。

ビルメンテナンス事業 以外の成長戦略

- 当社はビルメンテナンス事業以外に、不動産事業、介護事業、フランチャイズ事業、ホテル事業、その他事業を展開しています。
- それぞれの事業は、中核事業であるビルメンテナンス事業とのシナジーを第一義として展開しており、多くの相乗効果が生まれています。
- しかしながら、それぞれの事業は経済環境に影響される部分も多いことから、状況に応じてスクラップ&ビルドを考えながら展開していきます。
- お客様には不動産に関わるファシリティマネジメントを展開する総合ビルメンテナンス会社として評価いただけるよう、日々尽力します。
- 保有している不動産についても、所在している地域の再開発の動向などの情報を把握しながら、より効果的な活用などの検討を進めます。

事業の再構築への取り組み

ビルメンテナンス事業以外の事業について、下記の再構築に取り組んでいます。

- ① 採算面で厳しい状況が続いていたフードコートの自社運営事業について、2025年8月末に撤退しました。
- ② FC店舗の内、苦戦していた1店舗(やきとり家すみれ福島店)を2025年10月末に閉店しました。
- ③ 苦戦していた介護事業を見直し、2026年3月1日に1施設を事業譲渡しました。
- ④ ベトナムでの事業は、現地法人を2026年3月に事業譲渡し、ベトナムでの活動は従来から出資している現地企業との関係強化に特化しました。
- ⑤ 再開発が進む横浜みなとみらい地区に、将来を見越してオフィスを賃借しました。
- ⑥ 外国人雇用が増える中、人事部の中の国際課を充実させるとともに、外国人従業員が安心して居住できる環境づくりのため、宿舍としても活用できる物件を追加取得しました。

グループ会社の成長戦略

当社にはM&Aでグループ化した会社を含め多くの連結子会社があり、それぞれ連携してお客様の多様なニーズにお応えし、グループ全体で成長してまいります。

【主な連結子会社】

(株)ベスト・プロパティ	創和工業(株)	(株)マイムコミュニティー	小倉興産(株)	SINGAPORE BIKEN PTE.LTD.
東京都港区	東京都世田谷区	東京都港区	福岡県北九州市	シンガポール
プロパティマネジメント /テナント仲介/ 売買仲介他	建物調査・診断/ 外装・防水改修工事 /大規模改修工事他	社宅管理代行/ 管理組合サポート業務 /不動産売買仲介他	リーシング業務/ フロント業務/アカウント業務 /コンストラ外業務他	ビルメンテナンス/ エアコンメンテナンス他



グループ会社のトピックス

グループ各社の2026年3月期のトピックスは下記のとおりです。

なお、(株)ベスト・プロパティと(株)マイムコミュニティーは2026年3月期にそれぞれ本社を移転し、活動しています。

■株式会社 ベスト・プロパティ

中長期的に物件を保有するJ-REIT物件のプロパティマネジメント業務の受託に注力し、J-REIT物件の受託物件数は全国3位、都心5区では1位となりました。

■創和工業 株式会社

天井板関連工事において、室内側の足場工事を不要とする「ラムダ工法」を得意とし、営業基盤の強化に取り組んでいます。

■株式会社 マイムコミュニティー

従来からの社宅管理代行業務・管理組合サポート業務・不動産売買仲介業務に加え、区分所有物件の管理業務にも拡大展開しています。

■株式会社 小倉興産

福岡県小倉地区の大型商業ビルの証券化にあたり、2025年11月に有限責任組合員としてLP出資に参画し、地域に根差したメンテナンス会社としての展開を図っています。

サステナビリティへの取り組み

私たちビケンテクノは、持続可能な社会に向けた責任ある経営を実践してまいります。省エネや廃棄物削減といった業務改善はもちろん、自社開発の環境配慮型商品や、グリーン調達の推進、外国人雇用・人材育成など、多角的にSDGsの達成に貢献していきます。

ビケンテクノが思い描く未来

ビルメンテナンス事業を通じて、省エネ対応と環境負荷の低減を追及し、持続可能な社会の構築に貢献します。



特定した重要課題と関連するSDGs

安心・安全

衛生的・健康的な建物空間の提供



環境

持続可能な資材調達の推進・環境配慮製品サービスの推進・エコチューニングの推進
再生可能エネルギーの活用



ガバナンス
企業価値

コンプライアンス・企業ガバナンス順守
DX・ITを活用した業務改革



人と社会の価値

人権尊重、差別の排除
雇用の多様化・障がい者雇用、高齢者雇用、外国人雇用
ワークライフバランスの整備



社会貢献

地域の人々の暮らしの質の向上
PPP事業による公共建物の維持、管理業務
医療・介護・保育事業による社会貢献
奨学財団の運営
地域貢献活動への参加

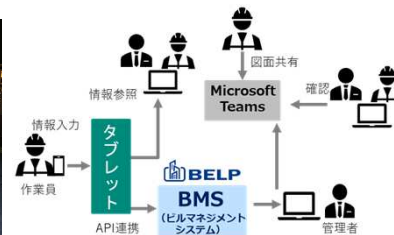
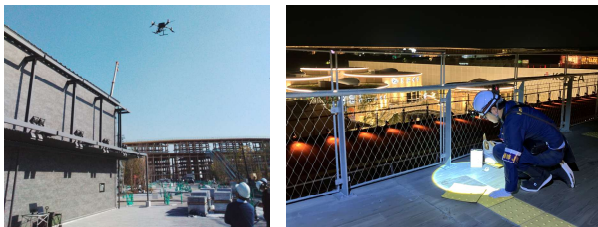


サステナビリティへの取り組み(トピックス紹介)

DX・ITを活用した業務改革

DX関連システムの導入

- 業務の効率化及び企業ガバナンス強化を主な目的に各種システムの導入を進めています。導入または導入中の主なシステムとしては、「グループウェア」「契約書管理システム」「電子契約システム」などがあります。
- 大阪・関西万博では未来社会の実験場とのコンセプトのもと、様々な先進的センシング技術等を活用したメンテナンス業務に取り組みました。現在は万博で導入した各システムを活用すべく、各現場の特性に合わせた導入を進めています。



人と社会の価値向上・社会への貢献

障害者技能競技大会の運営支援及び参加

- 独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構が開催する障がい者向けの競技大会「アビリンピック」への参加やその運営サポートを10年以上前から実施しています。



大会の様子



社内での練習風景

2025年度 当社社員
東京大会銀賞(2年連続)を経てアビリンピック全国大会参加